

第4回 生活困窮者自立支援全国研究交流大会

人の尊厳に根ざす生活困窮者自立支援で 新しい社会保障の展望を共に拓く

通信 1

歓迎挨拶



一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク代表理事 岡崎 誠也 (高知市長)

第4回生活困窮者自立支援全国研究交流大会に全国から参加された皆様を、初の地方都市開催地である高知市長としても心から歓迎いたします。

さて、生活困窮者自立支援法が本格施行されて3年目となり、国においては社会保障審議会の部会で制度の見直しが行われております。この制度は、経済的な困窮だけではなく、「社会的な孤立」にも着目した初めての取り組みです。各地域の特性に根差した多様な取り組みを共有しながら、今後は、そこにお住まいの方々も誰かの困りごとを「我がこと」として受け止め、支援する機関も「断らず」「あきらめず」「投げ出さず」、複数の機関が連携して「丸ごと」受け止められる地域共生社会を作っていく責任が私たちにはあると思います。

土佐の坂本龍馬をはじめとする偉人たちが新しい日本をつくる「創造」と気概に燃えた大政奉還から150周年の節目にあたる年に開催される本大会から、この新しい生活困窮者支援にまつわる新しい「創造」が全国に広がることを大いに期待しています！

一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク代表理事 奥田 知志 (NPO 法人抱樸 理事長)

「どんな相談も断らない」。生活困窮者自立支援制度の本質は、この一言にあると思います。

これは困窮者支援の場面のみならず、人との関わりを避け、「断る理由」を常に考えている現代社会の在り方そのものを問うものだと思います。

制度が、制度に留まらず、地域や社会の新しいあり方、人の生き方を考える契機となればと期待しています。

施行から3年。さてその期待は、どうなったか。今一度、本大会をとおして、この制度の存在意義を考えたいと思います。



参加申し込み状況

分科会別参加者数 (2017年11月8日現在)

●午前分科会<9:15-11:15>

分科会1	「はたらく」ことを支援する地域づくり	119人
分科会3	「一人ひとりの尊厳を柱とした包括ケアと生活困窮者支援」	107人
分科会4	「現地企画①ことわらない支援から視えてきたもの～地方中核都市からの発信～」	57人

●午後分科会<12:30-14:30>

分科会2	「農業分野は、キャリア形成を応援できるか!?!」	86人
分科会5	「現地企画②困りごと支援は土佐の山間から」	94人

●1日分科会<9:15-11:15/12:30-14:30>

分科会6	「子ども・若者支援～孤立からの脱却と自立支援の方策～」	148人
分科会7	「居住支援のこれから～住宅と暮らしの一体的な支援とは」	95人
分科会8	「生活困窮者自立支援事業の力量アップをはかる～自ら&協働の事業推進の視点～」	130人
分科会9	「必須事業の実現に向けて～家計相談支援の原点に戻る～」	119人
分科会10	「地域力『地域に生きる』」	88人

都道府県別参加者数 (2017年11月8日現在)

都道府県	参加者数	都道府県	参加者数	都道府県	参加者数
北海道	37	山梨県	0	香川県	23
青森県	3	長野県	5	愛媛県	27
岩手県	17	岐阜県	4	高知県	74
宮城県	11	静岡県	4	福岡県	53
秋田県	11	愛知県	21	佐賀県	18
山形県	3	三重県	19	長崎県	6
福島県	4	滋賀県	25	熊本県	30
茨城県	3	京都府	7	大分県	18
栃木県	2	大阪府	72	宮崎県	6
群馬県	0	兵庫県	25	鹿児島県	10
埼玉県	8	奈良県	7	沖縄県	8
千葉県	23	和歌山県	3	合計	809
東京都	83	鳥取県	16		
神奈川県	15	島根県	16		
新潟県	14	岡山県	20		
富山県	3	広島県	4		
石川県	3	山口県	13		
福井県	3	徳島県	32		

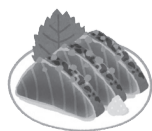
参加者のほか、講師、運営スタッフを含めて1000人を超えております。

ブース出展団体紹介

大会両日、会場内では販売ブースを設けております。高知の名産品や生活困窮者支援に関する書籍などが一堂に会する絶好の機会ですので、休憩時間などにぜひお立ち寄りください。

<株式会社かつお船> ※11日のみ

かつお船タウンでは鰹の薫焼き体験が出来る「土佐タタキ道場」を始め、美味しい出汁のうどん屋さん、和スイーツカフェ「かしこ」等のお食事処と土産物販売店を併設しております。桂浜から5分！近くにお越しの際は是非お立ち寄り下さい。



<株式会社明石書店>

明石書店は人権問題から出発して人文社会分野で幅広く出版を展開しています。近年は貧困・生活困窮者問題の書籍を多数刊行しており、新刊書では、見えない貧困層を取り上げた『シングル女性の貧困』に力を入れています。

『シングル女性の貧困』 小杉礼子・鈴木晶子・野依智子・横浜男女共同参画推進協会 編著、定価2,500円+税



<中央法規出版株式会社>

<NPO 法人全国コミュニティライフサポートセンター (CLC)>

CLCでは、生活困窮者支援や地域福祉に関する書籍を販売しています。「Social Action」第2号(子どもの貧困特集)、「Social Action」第3号(生活困窮者支援の理念に立ち返り実践にのぞむ)、各1,800円+税は、会場特別価格として2冊セットで3,500円+税で販売します。そのほか、生活支援体制整備事業に関する書籍も取り揃えております。ぜひお立ち寄りを！

大懇親会のご案内

本日18時30分より、「ザ クラウンパレス新阪急高知」にて大懇親会を開催します。すでに350人を超える皆さまよりお申し込みをいただいております。県民文化ホールより徒歩約3分ですが、受付の混雑が予想されますので、お時間に余裕をもってお越しください。講師や参加者の皆さま同士の交流の場として、お楽しみください。



高知市では、「高知市歩きたばこの防止に関する条例」が施行され、高知県立県民文化ホール（オレンジホール）等を含むエリアでの屋外での喫煙が禁止されています。ただし、たばこの火の適正管理および周りの安全が確認できる場所であれば、携帯灰皿を使って立ち止まって喫煙できます。

見どころ案内

徹底討論パート1

生活困窮者自立支援制度と地域共生社会

私の出番は徹底討論のパート1で「生活困窮者自立支援制度と地域共生社会」です。3年を経過した生活困窮者自立支援制度の直面している問題を打開し、よりよい制度に発展させていくためには、自治体や地域みんながこの制度の意義を再発見していく必要があります。地域共生社会が提起されそのための取り組みが始まったのはそのためのチャンスです。大きな流れのなかで制度を改善していく道筋を展望したいと思います。

登壇者：宮本 太郎/中央大学法学部 教授

徹底討論パート2

生活困窮者自立支援制度と地域共生社会

徹底討論パート2では、全国に先駆けて中山間地域の支えあいの仕組みづくりをスタートした高知県の独自事業「あったかふれあいセンター」の取り組みと、人口23万人の宝塚市の「制度のはざまを作らないセーフティネット」づくりについて、実践を担う法人の方から直接お話をうかがいます。

あなたの地域でできる「地域共生社会づくり」のヒントがたくさんあるはずですよ。ご期待ください！

コーディネーター：

村木 厚子/生活困窮者自立支援全国ネットワーク 顧問

基調鼎談

生活困窮者自立支援とこの国のセーフティネットのゆくえ

今から10年近く前、派遣切り、年越し派遣村がニュースになっているころ、NHKスペシャル「セーフティーネット・クライシス」という番組の制作に関わっていました。

この制度ができて、クライシスは避けられたのか。今後の展望はあるのか。現場での活動をつねにリードしてきた奥田氏と、行政学の第一人者できちんと政府に物申してこられた大森先生、政策推進のトップ定塚局長。“異色”で“最強”の鼎談で、ワクワクしています。

コーディネーター：

迫田 朋子/ジャーナリスト(元NHK制作局 エグゼクティブディレクター)

自治体編

生活困窮者自立支援で自治体政策をこう変える

あらゆる制度は、使いこなしてはじめて意味があります。

自治体編では、自立支援制度の積極活用に向けて、狭く困窮者支援にとどまらず、まちづくりの手段としての自立支援制度の活用事例について議論します。

様々な方法で移住者を増やしている邑南町、困窮者支援の先進地域である高知市、広域支援が拡充している大阪府の取り組みを紹介したいと思います。

コーディネーター：

駒村 康平/慶応義塾大学経済学部 教授

大会2日目の会場について

11月12日(日)は、高知県立大学永国寺キャンパスでの開催となります。JR高知駅より徒歩約20分、はりまや橋より徒歩約20分となっております。分科会会場は、教育研究棟の1階および2階です。お申込みいただいた分科会会場へ、直接お越しください。受付は午前9時から、午前分科会の開始は9時15分となりますので、お時間に余裕をもってお越しください。

第4回生活困窮者自立支援全国研究交流大会 岡崎誠也と村木厚子の熱烈対談



前夜祭ミニレポート

大会に先立ち、大会講師、生活困窮者自立支援全国ネットワーク役員・社員、関係者による前夜祭が「ラ・ヴィータ高知」にて開催されました。生活困窮者自立支援全国ネットワーク代表理事 岡崎誠也(高知市長)さんと生活困窮者自立支援全国ネットワーク顧問 村木厚子さんによる対談のあとは、懇親会を開催し、大会に向けた思いを再確認しました。

生活困窮者自立支援全国ネットワーク 会員募集

「生活困窮者自立支援全国ネットワーク」は、生活困窮者自立支援法に関わる事業を担う人材のネットワークであるのみならず、すでに地域において生活困窮者支援に携わってきた人々、当事者、学識経験者などが、職種や所属等を超えて広く出会い、共に学び、共に支え合い、支援者としての資質の維持・向上や関係者間の連携の確保、あるいは関連政策の推進を図っていくことを目的としています。

制度が充実することは必要ですが、制度だけが強化されるのではなく、社会そのものが強化されることが重要です。「生活困窮者自立支援全国ネットワーク」は、人材育成と共に新しい社会創造を模索する場所として、生活困窮者支援に関わる人々が出会い、苦労を分かち合い、支え合い、学び合い、その中で新しい社会の創造への胎動が始まる場となることを期待します。

◎主な活動

- (1)「全国研究交流大会」の開催
- (2)支援員に対する「実践的研修セミナー(仮称)」の開催及び情報交換等
- (3)行政等に対する政策提言など
- (4)その他前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

生活困窮者自立支援全国ネットワークにご入会いただいた場合は、会員特典として参加費から3,000円を会費として振替させていただきます。大会参加費が7,000円となります。会員には月1回メールで生活困窮者支援の情報やシンポジウム等のお知らせをメルマガでお届けします。ぜひこの機会に会員にご加入ください。※すでに会員の方は、大会参加費より今年度の年会費として年会費3,000円を振替させていただきます。

会員申し込みについては、生活困窮者自立支援全国ネットワークホームページをご覧ください。

●生活困窮者自立支援全国ネットワーク

<http://www.life-poor-support-japan.net/>

学割のご案内

ご要望にお応えして、大会参加費に学割を設けました。当日受付カウンターで学生証をお見せいただければ、一般参加費10,000円のうち3,000円を返金いたしますので、学生の方はぜひご利用ください。

次号のご案内

第4回生活困窮者自立支援全国研究交流大会速報の第2号は、12日(日)9時より、分科会受付にて配付いたします。どうぞ楽しみに！

編集後記

今年で3回目となる大会速報。会場内で編集スタッフを見かけられましたら、感想などをお寄せいただけますと励みになります。(文責 事務局編集部)



赤い羽根 福祉基金



Supported by THE NIPPON FOUNDATION